

平成28年度 学校自己評価システムシート（県立朝霞西高等学校）

目指す学校像	伸びる朝西、伸ばす朝西、感動と達成感あふれる学校をめざします。
重点目標	1 伸ばす授業、鍛える授業を進め、生徒の基礎学力を高める。 2 高い進路目標を持ち、実現に向けて全力を尽くす。 3 規律を遵守し、部活動や学校行事に全力を尽くす。 4 教育活動を広く広報し、本校への理解と信頼を高める。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	2名
	事務局（教職員）	8名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					年度評価（1月26日現在）		
年度目標					達成度	次年度への課題と改善策	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況		
1	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が授業や課題等に真面目に丁寧に取り組んでいるが、自ら進んで学習する姿勢は不十分である。 基礎学力の充実を図るとともに、生徒自らより高い目標を設定し、意欲的に学習に取り組むような授業を展開することが課題。 	①学力の向上、学習に対する意欲の向上を目指す。伸ばす授業、魅力ある授業を展開する。 ②授業での学習内容の理解をより深めるため、また進路希望実現のため、家庭学習時間（自己学習時間）を増やす。	①授業評価アンケート（7、12月）で授業理解度を把握し、授業改善に活用する。 ①年次研修者の研究授業や授業研究週間（年2回）の機会を活かし、課題発見や授業改善の情報交換の場を増やす。 ②教科・学年間の連携を深め、予習・復習の徹底を図り、家庭学習時間を確保する ②小テスト、週末課題などを通し、家庭学習時間の増大と適切な評価に繋がる工夫改善をする。 ②進路指導部と連携して、課外補習、長期休業中の補習の講座を数多く設定する。	①授業評価アンケートや学習状況調査（スタディサポート）に基づき、生徒の授業理解度は高まったか。 ①年次研修者の研究協議会や授業研究週間での授業相互見学等を活かし、授業の工夫改善は進んだか。 ②教科・学年等での学習時間の増加に繋げる方策が取れ、家庭学習時間は増えたか。 ②各授業や課題、評価などの工夫改善のための授業研究研修会を効果的に開催できたか。 ②学力向上、進路希望実現に向けた補習が設定されているか。	教員の授業改善への意識が高まり、情報交換も活発に行われ、生徒の学力や学習意欲の向上を目指す環境づくりが進んだ。 ①授業評価アンケートを2回実施。課題への取り組み95.1%(前年比-0.5%)、授業の理解度77.4%(前年比+2.4%)で生徒の授業に対する高い満足度と規範意識を確認できた。 ①年次経験者研修の研究授業や研究協議で教科を超えた意見交換を行い授業改善につなげた。 ②教科・学年の連携により校内での自己学習時間確保の体制が整った。 ②6月に各教科で授業研究週間研究協議を実施。報告書を作成し全教職員で情報を共有した。 ②補習の講座数は21(前年比3増)、参加者延べ人数は482名(前年比23名増)だった。	A	①授業改善に向けて、研究授業や研究協議会での意見交換等を積極的に進めてきたが、この取組は継続する。 ②課外補習は生徒の進学への意欲が高められるよう、学年・教科・進路指導部との連携を強化していく。 ②保護者アンケートでは、家庭学習の習慣がついているという回答は49%にとどまった。今後は進路指導部とも連携しながら、授業以外の自己学習の習慣を身に付けさせる方策の検討を重ねていく。
2	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の多様な進路希望に対応するため、きめ細やかな指導を行っている。 将来を見据えた堅実な進路選択の促しと、より高い目標への挑戦に向けた意欲の喚起が課題。 	①安易な進路選択を避け、精選した情報提供や時機を得たガイダンスにより進路意識の向上を促す。 ②第一志望に向けた自発的継続的な行動を支援し、一般入試に対応できる力の育成に努める	①三年間を見通した観点から進路行事を企画し、自己実現に向けての意識づけを行う。 ①進路指導部が学年や他分掌と連携し学習習慣の定着や学力向上に向けた取り組みを行う。 ②情報分析会や各種研修会を通じ、情報共有や生徒の現状を踏まえた効果的指導を行なう。 ②模試の受験を促し、振り返りを含めて学力向上への意欲の喚起と、結果の有効活用を促す。また講義動画の配信サービスなどを活用し、家庭学習を充実させる。	進路指導に対する生徒のアンケート結果から次のことを評価する。 ①適切な時期にそれぞれの行事を関連付けて実施できたか。 ①各時期における取り組みの意義を生徒に周知し、進路決定への意欲を喚起できたか。 ②各研修で得た情報をガイダンス資料として活用できたか。また面談時などの情報を共有し生徒に対して有効な支援ができたか。 ②個々の進路希望に沿った模試を適切に受験させることができたか。家庭学習の充実に向けた取り組みを支援できたか。	進路指導部を中心に、進路関係行事の工夫・改善を図り、生徒の進路意識の向上を促すさまざまな取り組みの効果が始まった。 ①今年度は入学後すぐに進路ガイダンスを行った。進路LHRの内容と時期を精査し、各行事の関係を理解させ取り組みに意欲を持たせた。 ①全教室に進路コーナーを設置。配布雑誌を再検討し積極的に情報提供を実施した。広報及び渉外と連携し保護者に向けた発信に務めた。 ②今年度は模試の成績返却時にガイダンスを実施し、資料の有効活用を促した。受験勉強や出願についてのガイダンスも実施。質問も多く生徒に意欲の高まりがみられた。 ②スタディアプリの受講者は全校で266名。到達度テストの実施や視聴歴の確認を行い、さらなる活用を促した。	A	①各学年の進路行事や学力向上の取り組みに対し、更に学年・教科との連携を深めてきた。 ①保護者アンケートでは、進路指導の内容については概ね充実しているという回答を得ているが、保護者に情報があまり届いていないという結果も出ている。渉外部および広報とも連携しながら、情報発信に努める。また個別面談期間増加の検討も進める。 ②自己の学力の把握と今後の課題については意識させることができてはいるが、実行ある現実的な行動に繋げるために更なる方策を検討していく。
3	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣、規範意識の向上、正しい制服の着用や交通マナーの遵守など、いずれもこの数年間で飛躍的に改善されている。「社会に通用する人間の育成」をテーマに全教職員が協力して生徒指導を行っている。 この数年間で改善された状態を本校の校風として定着させていくために、生徒の中に、自主性、自律性、愛校心を育てることが課題。 	①生徒指導に関する教職員の共通理解を深め、生徒の規範意識を育み成果をあげる。 ②積極的な生徒指導を通じて部活動や生徒会行事をさらに活性化させ生徒の活躍の場を増やす。	①学年単位、学校全体の生徒指導マニュアル(申し合わせ)について現状をふまえて検討し作成する。 ①スカート丈指導も定着してきたので、併せて服装・頭髪指導の到達水準の引き上げをはかる。 ①各学年と生徒指導部が連携した遅刻指導システムを確立し、遅刻をさらに減らせたか。 ①自転車乗車のマナーアップのため、交通安全指導・交通安全講話などを実施する。	①教職員の生徒指導に関する共通理解は深まったか、組織的な取り組みをする体制を作れたか。 ①スカート丈をはじめ、しっかりとした服装をすることが習慣になっているか。 ①各学年と生徒指導部が連携した遅刻指導システムを確立し、遅刻をさらに減らせたか。 ①交通マナーを遵守して登下校しているか。 ②生徒の部活動での大会結果や学校行事での活躍状況が向上したか。 ②しいき祭入場者数3000名以上など諸行事が盛り上がり生徒が愛校心を持つことができたか。 ②生徒会のアンケートの結果による学校生活に対する満足度が高いか。	全教職員の共通理解の下での生徒指導を推進し、生徒の規範意識が向上した。さらに安心・安全かつ活発な学校づくりを推進していく。 ①年度当初に各学年・全校の「生徒指導マニュアル」を作成。学年会・生徒指導部では状況把握と生徒指導上の課題の整理。全教職員が共通理解をもって意欲的に生徒指導に取り組み、校内に一定の緊張感・規範意識を醸成した。 ①定期的な登校指導及び遅刻指導システムが成果を上げ、今年度も再び遅刻が前年比8%減少した。 ②様々な部活で県大会に進出。(9の部活) ②しいき祭では来校者が2018名であったが生徒主体で昨年以上に盛り上がりクオリティーも高かった。保護者アンケートでも部活動や学校行事の充実に関する項目で、83%もの肯定的な回答をいただいた。 ②今年度は満足度のアンケートは実施しなかった。	A	①保護者アンケートでは、本校の生活指導内容の充実で76%の肯定的な回答をいただいた。今後も「生徒指導マニュアル」の整備、指導に関する協議の充実、全教職員による高いレベルの共通理解で意欲的な指導に取り組めるよう努力する。 ①遅刻指導システムを継続させ、時間を守ることを習慣化を強く進めていく。 ②県大出場は当たり前の結果となるように部活同士で切磋琢磨する。 ②生徒が主体的に考え本校の特色が出せるしいき祭を継続して作っていきけるよう働きかける。 ②学校生活についてアンケートを実施。
4	<ul style="list-style-type: none"> 『週報』やHPを通し、生徒・保護者・地域の中学生などに生徒の活躍を広報している。 朝西見学会を年4回実施している。学校説明や授業見学など充実した内容を提供しているが、さらに工夫を凝らし、参加者のニーズにこたえていくことが課題。 	①本校の教育活動や生徒のさまざまな活動を広く広報し、生徒、保護者及び地域の本校への理解と関心を高める。 ②地域の期待に応えるとともに生徒募集を充実させる。	①年間を通して発行する『週報』により、本校生の活躍や教育活動を広報する。今年度は進路に関する取り組みや成果も発信していく。 ①HPを頻繁に更新して、最新の教育活動内容(学校行事、部活動等)を発信する	①『週報』28号の発行で本校の様子を内外にタイムリーに発信できたか。進路関係の発信が行えたか。 ①HPの更新が適宜おこなわれたか。部活動の活動報告をその都度発信できたか。 ②朝西見学会に工夫改善がなされ、参加者数が増加したか。 ②進学フェアや中学校訪問において本校の入試情報が正確に伝わり本校志望者が増加したか。	さまざまな工夫をしながら、本校の生徒募集や広報活動は一定の成果を出すことができてはいる。今後も多様なニーズにこたえられる活動を継続し、発展させていく。 ①『週報』を年度当初計画以上の30号発行。進路情報を含め行事に合わせて本校の様子を発信した。管理職や多くの先生に原稿を書いていただいた。 ①HPに本校生徒の様子を伝える「本日一枚」を掲載しタイムリーに更新した。 ②アンケートの結果を前年度分だけでなく、今年度分に関しても随時分析し、来校者のニーズに答えた形で見学会を改善していった。全4回で昨年同様合計2,000人を超える参加者に対応できた。 ②進学フェア・塾説明会等で合計1,000人を超える相談対応を実施できた。	A	①HP発信速度に比べて『週報』は記事が古くなってしまうが、その分内容の濃い記事の掲載を目指す。 ①保護者アンケートでは、学校からの情報発信は概ね充実していると回答されている。HPへの保護者の方のアクセスが少ないので広報活動やイベント等の工夫をする。 ②今年度から始めた音楽部の発表等、本校生徒を見てもらう機会を多く設け、本校の良さを発信する。 ②塾から依頼される受け身の説明会だけでなく、受験実績の多い塾に対しては出前形式での攻めの説明会を検討する。

学校関係者評価
実施日平成 29年2月10日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> 校長の授業観察及び面談の実施や教員同士の授業に関する意見交換の取り組みが授業改善に生かされていて良い。 国語読解力の弱さは英語・数学にも影響する。大きく変化する社会に対応できるよう今まで同様、基礎・基本の充実を期待する。 学校内での自己学習時間の確保という視点は素晴らしい。学年による「朝勉」をはじめ自学自習の環境整備は大切である。 「主体的・対話的で深い学び」実践のため義務教育ではアクティブラーニング等受け身の授業脱却への取組みあり。高校での工夫を期待。 進路指導内容については概ね評価できる。今後は、進路指導情報の保護者への伝達方法の工夫を期待している。 初めて大学受験生を持つ不安親にはより解りやすい情報提供があるとありがたい。 大学卒業後の就職のことも視野に入れた進路指導も検討してほしい。 子どもの将来について親が話せる内容は限られている。PTAの活動などで、保護者の進路にかかわる体験等をまとめて生徒に向け発信したいと考えている。 最近の大学合格実績は素晴らしい。今後もキャリア教育の視点に立った、生き方指導としての進路指導を期待している。 徹底した生徒指導は大変素晴らしいものである。特に遅刻数の激減にはとても驚いている。朝霞西高校がとても良い学校になってきていることがよくわかる。 生徒指導が単なる決まりを守るという指導でなく、生徒に指導の必要性を説いている面は高く評価できる。 運動部、文化部ともに活躍しているが、それらをHPでも更に発信してほしい。 学校行事が充実し、地域での活動も活発になっていることは大変評価できる。 近年、表面に出にくくなっている生徒の心情や人間関係の変化に対応した心に寄り添う温かな指導の展開を期待する。 週報は近隣の学校や施設などへの配布もあり、多くの方が読んでいる。朝霞西の大きな宝ともいえるべき取り組みで、広報の役割を十分に果たしている。 HPの頻繁な更新はとても良い。今後リニューアルの際には、保護者が必要とする情報の掲載等、工夫を期待する。 学校説明会について、生徒が司会等を務めていることに加えて、もっと学校の良さがわかるような工夫を期待している。 今年度の1月現在の志願者倍率は昨年よりも低い。生徒募集は長いスパンで見れば大きな成果が表れている。達成度はAでいいのではないかと。(BをAに変更)

